

片岡春雄寿都町長は10月8日にも資源エネルギー庁や原子力発電環境整備機構(NUMO)に、高レベル放射性廃棄物最終処分場選定の文献調査への応募を伝達するつもりだと、9月30日に報道各社が報じました。

報道によると、10月8日の町議会全員協議会で応募を決断するという考えを片岡町長は示したということです。しかし、9月7日以降、町民説明会は9回開催されましたが、町長と町民の意見は平行線をたどることばかりで、お互いに不信感を募らせる状況が続いてきました。また、9月29日に行われた資源エネルギー庁やNUMOの説明に対しても、納得のいかない町民が多くいました。

私たち、町民の会では、文献調査への応募に反対の立場をとり、これまでに署名活動を行ってきました。さまざまながらみもある中で署名してくださった町民は、すでに800人を超えています。核のゴミの地層処分は科学的にも難しく、諸外国でも、まだほとんどの国が、何十年も検討されていながら、進んでいないのが現状です。なぜ、寿都町が、たった2ヶ月足らずで、それを進める一歩となる「文献調査」を受け入れなければならないのか、私たちはまったく納得できません。一方で、町の財政難や、核のゴミの議論の必要性などを掲げる片岡町長の発案に賛成する町民がいらっしゃることも事実です。

寿都町の自慢のひとつは、町民全員が家族のように仲良く暮らしてきたことでした。しかし、8月13日の最初の報道以来、友人同士が賛成反対をめぐって疑心暗鬼になったり、夫婦や親子のあいだでも賛成反対に分かれ、気まずい思いをしたりという話が私たちの身近でも聞こえてきています。このまま、片岡町長が応募に突き進めば、町民の分断がますます進むことが危惧されます。この間の町民説明会で、町民は、核のゴミ問題や町の財政難の問題を勉強してきました。資源エネルギー庁とNUMOによる説明会も開かれ、また10月2日には、この問題に詳しい伴英幸さんをお呼びした勉強会も予定しています。これらを通じて、町民の多くは、地層処分の文献調査を受け入れるべきか否かについて、ある程度まで判断ができるようになってきていると思います。

そこで、私たちは提案いたします。高レベル放射性廃棄物最終処分場選定の文献調査への応募にあたっては、まず、町民全員の意見を聞く住民投票を行いませんか。10月8日に行われるという町議会全員協議会はこれまで同様非公開になると思われます。その議事録が公開されるかどうか分かりません。そのような密室での議論をもって、寿都町の将来を大きく決定づける高レベル放射性廃棄物最終処分場選定の文献調査への応募が決まることには、賛成反対問わず、納得できない町民が多くいるはずです。

私たちは、「寿都町における特定放射性廃棄物最終処分施設建設地選定に関する文献調査への応募に関する住民投票条例」の制定を請求する署名活動を始めます。

**片岡町長、議員の皆さん、そして寿都町に住むすべての皆さんに訴えます。**

**賛成の人も反対の人も力をあわせて、町の将来は町民全員で民主的に決めましょう！**